

「mruby/c 2.0」を公開

ITOC が取り組む IoT デバイス向け開発言語「mruby/c」のバージョンアップ



島根県松江市学園南1-2-1 くにびきメッセ4F
公益財団法人しまね産業振興財団
しまねソフト研究開発センター 担当：徳田
連絡先：0852-61-2225
e-mail：itoc@s-itoc.jp

しまねソフト研究開発センター（ITOC）と国立大学法人九州工業大学が共同研究開発を行っている IoT 小型端末向け組込みプログラミング言語「mruby/c」について、現在の mruby/c1.2 からバージョンアップした mruby/2.0 を公開しました。

これまで mruby/c1.2 では、「固定長バイトコード」を採用していましたが、mruby2.0.0 で採用された「可変長バイトコード」に対応しました。これにより、バイトコードのサイズを小さくすることができ、ROM 容量の小さなマイコンでもより多くの処理を行わせることが可能となりました。加えて、多くのバグ修正を行いました。

今後は、更なる開発に取り組むとともに、「mruby/c」を広く県内企業に紹介し、関心を持つ企業との共同研究などを進めていくことで、県内企業の競争力強化につながる取り組みを行って参ります。

◆ mruby/c ver 2.0 公開 Web サイト

https://www.s-itoc.jp/report/reaserch_results/838

主に以下の機能を追加いたしました。

◆ mruby/c ver2.0

- * 可変長バイトコードの採用
- * クラス継承に関連した実行が可能（例：super など）
- * ブロック処理の実効に制約があった部分についての制約の緩和

◆ mruby/c とは

Ruby の特徴である開発生産性の高さを引き継ぎつつ、プログラム実行時に必要なメモリ消費量が従来の mruby（組込み向け軽量 Ruby）より少ないソフトウェアの開発言語です。

センサーネットワークや、ウェアラブルなどの小型端末に向けたソフトウェア開発に向いています。